

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 7/25/2018

■参加プログラム: IARU Global Summer Program

OXF1: Global Challenges of the 21st Century – Environmental, Technological and Urban Sustainability

■プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-IARUGSP.html>

■派遣先大学: オックスフォード大学

■プログラム期間: 6/25/2018 ~ 7/21/2018

■東京大学での所属学部・研究科等: 工学部

■学年(プログラム開始時): 学部2

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:

学科が忙しくないため

■参加を決めるまでの経緯:

オックスフォードに憧れを持っていて、ぜひ3年の夏に行こうと思い応募した

プログラムについて

■概要:

インテンシブな内容でした

■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:

スポーツ

■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:

異文化交流

■週末の過ごし方:

観光や勉強

派遣先大学の環境について

■設備:

図書館は静かで、勉強できる環境が整っていた

■サポート体制:

チューターが相談にのってくれた

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:

学生寮

■宿泊先の様子、どのように見つけたか:

ホームページで確認しました。

■ 気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等：
気候は、だいたい晴れで、半袖でちょうどよいです。 大学の周辺は、大変静かで、図書館も多くあり勉強できる環境が整っています。 寮の食事は、バラエティ豊富で好きな物を選べるので良かったです。
■ お金の管理方法、現地の通貨事情：
大金は持ち歩かず、マスターカードを使った方がよいです
■ 治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理：
夜遅くに外出は避けた方がよいです。
■ 自由時間に利用した交通手段：
列車, バス
■ プログラム期間中に利用したネット環境：
キャンパス Wifi

参加前の準備・手続きについて

■ プログラムへの参加手続き：
志望動機書と英語成績証明を提出した toefl は早めに受験しておくといいいでしょう。
■ ビザの手続き：
なし
■ 医療関係の準備：
なし
■ 保険関係の準備：
なし
■ 東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き：
諸々の手続きについて早めに学部にご相談したほうがよいです
■ 語学関係の準備：
直前に、リスニング、スピーキングを強化しておくといいいでしょう。Voicetube をおすすめします

費用・奨学金に関すること

■ 参加するために要した費用：	
航空費	100000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	600000 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	10000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■ その他、補足等：	

■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	10000 円
交通費	10000 円
娯楽費	10000 円
■その他、補足等:	
■プログラム参加のための奨学金の受給有無:	
受給した	
■奨学金の支給機関・団体名等:	
GEFIL	
■受給金額(月額):	
300000 円	
■受給金額についての補足等:	
■奨学金をどのように見つけたか:	
gefil	

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:
世界各国の友人ができたのと、オックスフォード大学の教授や校風に近づけたこと
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:
国際性をもっと高めようと思った。東大で満足してはならないと思った。
■進路・就職先(就職希望先):
研究職、環境エネルギー分野
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
参加を迷っているなら、絶対参加したほうが良いです！
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:
goglobal

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 7/24/2018

■参加プログラム: IARU Global Summer Program

OXF1: Global Challenges of the 21st Century – Environmental, Technological and Urban Sustainability

■プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-IARUGSP.html>

■派遣先大学: オックスフォード大学

■プログラム期間: 6/25/2018 ~ 7/21/2018

■東京大学での所属学部・研究科等: 経済学部

■学年(プログラム開始時): 学部 3

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:

全学交換留学参加の影響で S2 タームが 1 回余計にあるので、授業に出ずにサマープログラムに行く余裕があった

■参加を決めるまでの経緯:

全学交換留学参加前にサマープログラムに参加すれば英語力増強にもつながると思った事、単純に内容に興味があったことから応募した。英語力が足りていないと思っていたし正直オファーがもらえるとも思っていなかったが、勢いで応募してしまった。

プログラムについて

■概要:

21 世紀の世界の課題といったテーマで気候変動や都市化、環境保護などを扱う。チュートリアルでは週 1 本指定されたテーマで 1500 ワードの小論文を書き、翌週頭にそれに基づいて 2,3 人のグループと教授でディスカッションを行う。都市についての講義が 2 時間×5 回あり、最後にこれに関する 2000 ワードの小論文を書く。3 時間×3 回の講義ではプログラムのテーマに関係するトピックを扱い、質問セッションが設けられる。最終週には各グループ 1 時間ずつのプレゼンテーション・ディベートがあり、プログラム全体を通してこれに向けても準備することになる。自習時間がかかなり長めにとられているが、課題がかかなり多いので時間が余ると感じたことはなかった。週末を楽しめるように大体の課題は金曜が締切になっており、休日は友人とロンドンに行ったり教授がボート漕ぎにつれて行ってくれたりする。

■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:

取り組んでいない

■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:

平日は課題や授業以外のことをする余裕はあまりない。

■週末の過ごし方:

友人とロンドンに行く、友人とお酒を買ってきて飲む、教授にボート漕ぎにつれて行ってもらうなどした。最終週は課題やプレゼン準備が忙しすぎて何もできなかった。プログラム終了後は打ち上げで教授がバーやクラブに連れて行ってくれる。

派遣先大学の環境について

■設備:

大量(30以上?)の図書館があり、そのうち2,3か所を使って勉強や資料集めをする。オクスフォードの由緒ある図書館で勉強するだけでも楽しい。スポーツ施設は利用できないが気持ちがいい街なので朝にランニングをしている参加者はいた。毎日ダイニングホールで食事をとる。食堂の地下にあるアンダークラフトバーではコーヒーや紅茶が無料で飲み、食後に皆で集まって勉強していた。なぜか教授がやたらとお酒をおごってくれる。Wifiはカレッジの訪問者Wifiとeduroamを使用していた。部屋の位置によってはつながりにくいことがある。

■サポート体制:

語学面でのサポートは特になく、英語ができる前提でプログラムが進む。そもそも参加者の半数以上がネイティブスピーカーである。学習面では教授との距離が近く、何でも相談できる雰囲気がある。最初の2週は生活面で困ったことがあるか相談するセッションがあり、少人数プログラムであることからサポート体制はかなり充実していると感じた。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:

学生寮

■宿泊先の様子、どのように見つけたか:

エクセター・カレッジという歴史ある小さめのカレッジに宿泊、個室でタオル類も支給される。シャワーやトイレはシェア。部屋が4階にあってエレベーターがないため、上るのがかなり疲れる。カレッジ内で食事や講義など生活はほぼ完結する。

■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等:

基本的には最高気温は30度を切る程度。今年は例外的に暑くて30度を超える日が多かった。ほとんどの部屋に冷房がついていないので、たまに暑い日があるとかなりつらい。徒歩圏内にスーパーマーケットやレストラン、カフェ、薬局や映画館、パブなど一通りのものは揃っている。バスや電車が通っているが、プログラム中はロンドンに行く以外は利用することはない。食事は平日は3食、週末は朝と夕が提供されるので自分で買うことはほぼない。ダイニングホールで他の生徒や教授と一緒に集まって食べる。

■お金の管理方法、現地の通貨事情:

ほとんどの場所でクレジットカードが使えるため(ヨーロッパではよくある話だが、オクスフォードでもJCBは使えないことが多い)苦労はしなかった。カレッジの洗濯機を使うのに小銭が必要だったり友達と割り勘することがあったりするため、1.2万円程度は両替しておくとう便利。

■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理:

他の国や、ロンドンと比べても治安は良い印象。21時過ぎまで明るいため夜に危険を感じることも少ない。教授との距離が近くほぼ毎日食事と一緒にとるので、何か困ったことがあればすぐに相談できる。

■自由時間に利用した交通手段:

列車, バス

■プログラム期間中に利用したネット環境:

キャンパス Wifi

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き:

東大へのサマープログラム参加申請書と、オクスフォード大への IARU プログラム参加申請書を提出。

■ビザの手続き:

ビザは不要だが、入国の際に受け入れ証明書や残高証明書が必要。

■医療関係の準備:

特にないが、風邪薬や胃腸薬を持参した。芝花粉が辛い時期なので、花粉症の人はアレルギーの薬を持参すると良い。私は慣れるまでくしゃみが止まらなかった。

■保険関係の準備:

大学指定の保険に加入。

■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き:

特になし。留学届の提出と指導教員への相談くらい。

■語学関係の準備:

前年秋に全学交換留学のために TOEFL99 点を取得した。それ以降も留学に向けて英語の勉強をしていたが、プログラムに向けて特に何かしていたわけではなかった。例年の参加者の報告によると TOEFL100 点では足りないレベルといわれることが多いが、やる気や積極性でカバーすれば 100 点前後でもなんとかやっていると感じた。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:

航空費	130000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	650000 円
教科書代・書籍代	15000 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	9000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円

■その他、補足等:

■留学先で費やした生活費:

家賃	0 円
食費	5000 円
交通費	0 円
娯楽費	0 円

■その他、補足等:

大体の費用がプログラム費用に含まれている、週末のみ昼食代がかかる

■プログラム参加のための奨学金の受給有無:

受給した

■奨学金の支給機関・団体名等:
Santander 銀行
■受給金額(月額):
80000 円
■受給金額についての補足等:
■奨学金をどのように見つけたか:
大学(本部国際交流課)からの案内

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:
最初は英語力が足りるか不安だったか、いざ始まると忙しすぎて不安を感じる暇すらなかった。当初はコミュニケーションもぎこちなかったが、プログラム後半になるにつれてフランクな会話なども慣れてきた。最終的には良い成績で Distinction をもらうこともでき、自信にもつながった。一方で 3 か国語話せる人が何人もいたりやはりネイティブに比べた自分の英語力の無さが露呈したりと実力不足を感じる場面も多かった。アメリカ留学に向けて自信と危機感の両面において良い弾みとなったと思う。英語を抜きにしてもアカデミックなエッセイの書き方やプレゼンテーションで重要な点など細かく指導され、今後のためになる部分は多かった。そして何より教授、生徒含めて家族のような仲間ができたことが最も大きな財産だと感じている。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:
もともと日本で数年働いた後イギリスの大学院に進学し、将来は国際機関などに勤めたいと考えていたが、今回のプログラムを通してその意志がより強くなった。オクスフォードでの勉強も個人的には相性が良いと感じ、具体的な進学先としてオクスフォード大も考慮するようになった。
■進路・就職先(就職希望先):
研究職, 公的機関, 民間企業
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
このプログラムに関して言うと、全体的にかなり質が高くリターンが大きいプログラムなので、参加を迷っている人がいれば強く勧めたい。英語力に不安があってもいざ始まってみればなんとかなる。
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:
特になし